

研究会報告

(1) 平成29年度 小学校家庭科夏季実技研修会実施報告

ア 期 日 平成29年7月27日(木)
イ 会 場 愛媛大学教育学部附属小学校 家庭科室
ウ 日 程

9:00~10:00	受付
10:00~10:10	開会挨拶
10:10~11:40	研修 ◎講義 ◎模擬授業
11:40~11:50	意見交換
11:50~12:00	閉会挨拶



エ 研修内容

講義「上手に使おう物やお金 ～おこづかいゲームを通して～」

模擬授業「おこづかいゲーム」

◎講師：愛媛県金融広報アドバイザー(消費生活相談員) 武田 咲枝 氏

消費者を取り巻く環境は大きく変化し、それに伴って、消費者トラブルや消費者被害の内容等も変化してきている。今後、インターネット機器利用の低年齢化などにより、児童においても消費者問題が更に広がる恐れもある。そこで、今回は、愛媛県金融広報アドバイザー(消費生活相談員)である武田咲枝氏を講師に迎え、「講義『上手に使おう物やお金』」、「模擬授業『おこづかいゲーム』」の研修を行った。

(ア) 講義「上手に使おう物やお金 ～おこづかいゲームを通して～」

㊶ 消費者教育の現状と課題、今後の方向性

愛媛県の小学校では、授業時間が限られていて、金銭教育が十分とは言えない。また、消費者教育への理解が不十分で、「消費者教育推進法」制定への周知・徹底が不足しているのが現状である。

課題としては、教員の研修会等の機会が少ない。時間がない。人材(指導者・講師)の情報が得られない。活用できる教材がない。予算がない。取組方法が分からないなどが挙げられた。このことから、授業に使用できる教材の開発や情報提供、授業等への外部講師の派遣などの支援が必要である。

㊷ 消費者行政(啓発機関)と学校との連携

愛媛県消費生活センター(県庁県民生活課)などの消費者教育を行っている機関などと連携を取り、出前授業(研修)を行うとよい。

㊸ 消費者教育の推進、教材づくり

啓発グループひめまるによる教材作り、教材研究、学校における出前授業、教員・保護者向け研修、年齢や対象者に合わせた啓発講座等が行われている。



(イ) 模擬授業「おこづかいゲーム」

<小学校5年生「上手に使う お金と物」おこづかいゲーム>

(目標)

- 自分の生活との関わりから、物や金銭の大切さに気付き、使い方や選び方、買い方に関心をもつ。 【関心・意欲・態度】
- 物や金銭の使い方を見直し、計画的な使い方を考えたり、工夫したりする。 【創意工夫】

(活用)

児童が消費や金銭について考え、よりよいものの選び方や購入の仕方を学ぶ題材である。

- 物や金銭の大切さ
- 目的に合った物の選び方や計画的な買い物の仕方
- ⇒ 将来の自立した消費者としての基本的な姿勢や健全な金銭感覚を身に付けさせる。
- ⇒ 体験型の学習活動を取り入れることにより、児童が主体的に活動することから生まれる「気付き」が実践力の育成につながる。



オ 感想

- ・ 消費者教育は、今後必要になってくるので、実技研修ができてよかった。
- ・ 今回体験したおこづかいゲームについて、改善点等を出し合えたことがよかったと思う。
- ・ このまま授業に生かせる内容で大変勉強になった。
- ・ 消費者教育は大切だけど、子どもにはなかなか難しい分野である。ゲームを通して理解が深められるのでとてもよかった。
- ・ 楽しみながら学習できた。楽しく真剣に悩めた。
- ・ データを頂いて、すぐできるのがありがたい。データをアレンジして、ねらいに沿ったものが作れるのがありがたい。
- ・ 大人にも楽しめるゲームなので、子どもにも楽しめる。
- ・ 観点をどこにもっていくかによってアレンジできる。ストップのところに、その観点のものをもっていくこともできる。
- ・ 奥の深いゲームからいろいろな学びができる。
- ・ 子どもの気持ちになってゲームに参加した。見通しをもって計画的にしていかなければならないと思った。
- ・ 参観日ですと親にも子どもにも啓発になる。
- ・ お金は、簡単に稼げないものだということが分かるゲームだった。